

語る 伝える

相模原事件で声明を出した 全国手をつなぐ育成会連合会 久保厚子会長(65) 〓大津市

安全だと思っていた施設で本当にそんなことが起きるのか。相模原市の知的障害者施設で19人が刺殺された事件をニュースで知った時、すぐに事実を受け入れることはできなかった。さらに驚いたのは、容疑者が障害者は人を不幸にするなど強い差別意識を持っていたことだ。

事件後、(知的障害者の家族らでつくる)育成会連合会に障害のある人や家族

スーム

相模原殺傷事件 7月26日、相模原市の知的障害者施設「清久井やまゆり園」で入所者19人が刃物で刺されて死亡、職員8人を含む27人が負傷した。神奈川県警が同日逮捕した元施設職員の名は犯行前に「重度障害者は生きていてほしい方がないから安楽死させた方がいい」などと発言していたとされる。

誰もが人格を尊重し合う社会へ ひるまず、今こそ前に進もう。



「事件にひるむことなく共生社会の実現を目指そう」と語る久保会長

から不安の声が相次いで寄せられた。ニュースに接するうちに社会全体から障害者には「勇気をもった」前着は不要と言われている。うな錯覚に襲われ、怖くて家から出られないという人までいた。

そこで私たち育成会連合会はホームページ上で「誰かが「障害者はいなく、害者は邪魔だ」など容疑者なればい」なんて言うて、私たちが家族は全力でみ

にわたり、障害者の人権と

幸せを求めて活動を続けてきただけに無念さを覚えた。だが、一部の特異な人の考えと切り切れるだろうか。例えば、障害者の作業所の新設を巡っては「総論では賛成だが、うちの隣には突っ込んでほしくない」ということも珍しくない。障害者は別の存在だという意識を心の奥底に持っている人が少なからずいると感じる。

事件を機に、全国の障害者施設で警備態勢を強化する動きがあるが、安全重視で社会と距離を置いてしまつと障害者が地域から隔絶された存在になってしまふ。そうではなく、住民と障害者の交流を一層深めるなど地域に開いた運営に努めるこ

者施設で警備態勢を強化する動きがあるが、安全重視で社会と距離を置いてしまつと障害者が地域から隔絶された存在になってしまふ。そうではなく、住民と障害者の交流を一層深めるなど地域に開いた運営に努めるこ

記者の一言

親として、全国団体の長た。障害の有無を問わず、取り組んできた久保会長だ。言葉からは障害者の怒りや悔しさがにじんだ。4月には、障害を埋出す

ある人はただただ生きているのではなく、自分なりに懸命に生きようとしている事実をもっと知ってほし

私たちが目指すのは、障害の有無に関係なく誰もが人格と個性を尊重し、支えあひ、多様な在り方を認め合つことだ。そんな共生社会の実現のため、悲慘な事件にひるまず、今こそ前に進む。それでも私を不幸にする存在だと考えたことは一度もない。この子がいるから家族をはじめ、悪魔の

岡山市内で11月29日に開かれた手をこたたく育成会

(松島健)

障害児預かり厳格化

4月から
厚労省 不正防止や質確保

厚生労働省は4日、障害

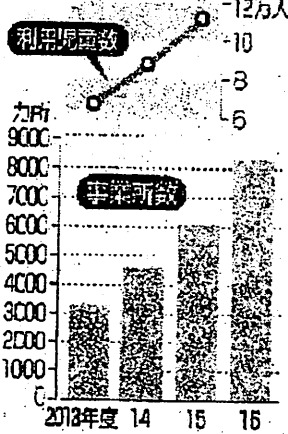
のある子どもを放課後や休日

も質確保を図る。

放課後デイは、学童保育

の障害者が最低賃金以上を

放課後等デイサービスの
推移(厚労省の資料による)



放課後等デイサービス 6、18歳の障害児を放課後や長期休

「就労継続支援A型事業所」

「就労継続支援A型事業所」

放課後デイでは現在、じ

就労継続支援A型事業所

どに充てなければならぬ